

座ってください。

式辞として、職員を代表してお祝いの言葉を述べさせていただきます。

なぎとさん、ちあきさん、あいらさん、れいさん、ななこさん、ひなたさん、ちなさん、いろさん、かのんさん、れあさん、のぼるさん、かいせいさん、のえかさん、あんりさん、しゅんすけさん、ゆずなさん、るいさん、まさきさん、そしてそのご家族の皆さま、本日は御卒業おめでとうございます。浮野小学校職員一同、心よりお祝い申し上げます。

六年前、皆さんが小学校に入学したのは、ちょうど「平成」から「令和」へと、新しい年号が始まる、記念すべき年でした。二年生では新型コロナウイルス感染症が大流行。学校が休校になり、「マスク生活」が始まりました。三年生の時には、五十七年ぶりに東京でオリンピックが開かれ、大谷選手がアメリカ大リーグで、一回目の最優秀選手賞に選ばれました。今でも続いている、大活躍が始まった年です。四年生は、ロシアとウクライナとの間で戦争が始まった年でした。この間、朝会でお話した通り、三年たった今も、この戦争は続いていて、多くの罪もない人たちが、日々、命を落としています。ーこうして振り返ると、皆さんの小学校時代は、数十年後、教科書に載っているかもしれないような、大きな出来事がいっぱいあった時代でした。

でも皆さんにとっては、それらのニュース以上に大きな出来事が、この六年間の学校生活の中でいろいろあったと思います。楽しかったこと、うれしかったこと、苦しかったこと、悲しか

ったこと、悔しかったこと、…それらの出来事は、教科書ではなく、皆さんの「人生」という一冊の物語の中にとっかりと刻まれているでしょう。苦しかったページや悲しかったページは、今はあまり見たくないかもしれませんが。でも数年後、それらのページを見て懐かしく感じるときがきつと来るはずです。その時まで、大切にしまっておいてください。また、苦しんだり悲しんだりした経験は、皆さんの今後の人生にきつと役に立ちます。苦しんだ経験をいっばいした人は、その後どんな困難があっても乗り越えることができます。悲しんだ経験をいっばいした人は、他人の心の痛みが分かる優しい人になります。

人生を一冊の物語に例えた話をもう少し続けます。私にも「人生」という一冊の物語があります。皆さんの物話より分厚く、ちよつとだけ古びて、最初の方のページはかすれて読みにくくなってしまうました。でも、この世で一つだけの、とても大切な物語です。実は、この物語には、六年生の皆さんがたくさん登場して、私の物語をおもしろく、読みごたえのある内容にしてくれたんです。ありがとうございます。私だけではありません。担任の先生を初め、浮野小のすべての職員、クラスメート、一年生から五年生の後輩たち、そして家族の方々の心の中にも皆さんとの思い出はしっかり刻まれているはずです。こんな風に、誰かのしたことが、他の人の人生に影響を与えるってすてきなことだと思います。それが、皆さんが生きていろんな経験をする意味だと思います。

皆さんの「人生」という一冊の物語の、四月からのページには、まだ何も書かれてません。皆さんの未来は、まだ真っ白です。皆さんが、中学校でどんな経験をして、どんな物語が生まれるのか、とても楽しみです。つらく苦しい出来事もあるかも

しませんが、恐れずに、自分だけの人生を、自分の足で、しっかり歩んでください。困ったときには、小学校時代のページを振り返って、昔を懐かしんだり、これから自分がどうすれば良いのか、参考にしたりしてください。

ご家族の皆さま。六年間、小学校の教育活動にご理解とご協力いただき、ありがとうございました。特に、コロナ対策のため、学校のいろいろな活動が中止や規模の縮小、時期の変更などを余儀なくされたときには、大変ご迷惑をおかけしました。六年前、あんなに小さかった子どもたちも、今ではこんなに大きく、心も体も成長しました。これらは、ご家族の皆様の、時には厳しく、時には優しい支えあってのことと感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ご来賓の皆さま、本日はお忙しい中、お越しくださり本当にありがとうございます。高い席からではございますが、お礼申し上げます。ご存じのように、本校は、児童数が少なく、アットホームな雰囲気であることが特長ですが、その中でも、この学年は約二十名という少人数で、六年間を過ごしてきました。今後は、アットホームな、家族のような家から離れ、社会でいろいろな人と接していきます。今後も、それぞれのお立場で、子どもたちを見守っていただければ幸いに存じます。

最後に、皆さんに送りたいのは、やはりこの言葉、浮野小の校訓である「明るく なかよく 正しく」です。この言葉は、一見、どこにでもある、大した価値のない言葉のように見えるかもしれませんが、でも、この校訓には、人間が生きていくのに

大切なことがつまっています。皆さんが特に大人になったときに、ぜひ思い出してほしい言葉です。

「明るく」。いつも「明るく」生活するというのはとても難しいことです。大人になればなるほどそれを感じます。でも、「明るく」生活できれば、あなたも、周りの人も幸せな気持ちになります。皆さんにはそんな人生を歩んでほしいです。

「なかよく」。周りの人と「なかよく」生活するのも、とても難しいことです。でもそれは当たり前です。この世に、自分とまったく同じ考えをもっている人は誰もいないのだから。だからこそ、相手の気持ちを理解し、尊重することを大事にしてほしい。その姿勢が相手に伝われば、相手もあなたのことを理解しようとしてくれます。

そして「正しく」。正直で、うそをつかない、ずるいことをしない、まずはこれが基本です。でも、もう一つ忘れないでほしいのは、自分が「正しい」と思っていることでも、人によっては全く逆の考えをもっているかもしれない、ということ。特に最近、何が正しくて何が間違っているのか、よく分からないことが増えてきました。皆さんにお願いしたいのは、何が正しいのか、まずは人任せにせず、自分の頭で一生懸命考えること、そして、いろんな人と話し合うことです。

皆さん一人一人の今後の人生が、明るく、なかよく、正しく、すばらしい物語になることを祈っています。

以上でお祝いの言葉とさせていただきます。

令和七年三月十九日

名古屋市立浮野小学校長

宇佐見 康